

群馬県立自然史博物館

第49回企画展「恐竜時代の海の支配者」

開催期間：平成27年7月11日（土）～平成27年8月31日（月）

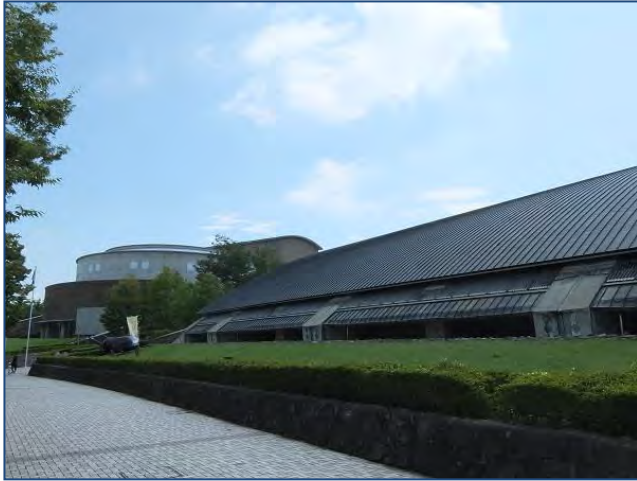


【企画展の内容・目的】

- 海のない群馬県における海洋教育の一助とすることを目的に、内陸に所在する当館ならではの視点から「恐竜時代の海」をテーマとして海の果たす役割や海からの恩恵、そして群馬県と海との結びつきについて学べる場を提供した。
- 企画展を通して、太古の海に生息していた生物への興味や関心を持つと同時に、古より続く地球規模での自然と生物の歴史を知り、ひいては現代社会に暮らす我々人類と海を含む「自然環境」との共存について再認識していただく機会を提供した。そしてこの大切な自然を次世代へ引き継ぐことの重要性を知る場を創出した。
- 企画展の持つテーマをより深く理解してもらうため、多様な年代層を対象とした関連する講演会やワークショップ、映画の上映などの各種付帯事業を実施し、わかりやすく楽しい学びの場を提供した。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成27年7月11日（土）～8月31日（月）
- 開催場所：群馬県立自然史博物館 エントランス、回廊、企画展示室
- 入場者数：53,024人



群馬県立自然史博物館 外観



企画展会場 入口



【展示テーマ：海の歴史・恐竜時代の海】

主な展示資料

- ・大陸の移動と海洋・海流の変化を時系列に地球規模で理解できる展示
- ・ハンズオン標本、実物化石や復原図による体感的な展示

【海の学び効果】

企画展全体のテーマとなる恐竜時代についての情報を概略的に紹介しながら「海の学び」への入口として、現在では海のない群馬県にも海があった中生代の世界を紹介した。

展示内容の理解を助けるため、大陸の配置や海流の変遷、代表的な化石などバックグラウンドとなる情報を整理して紹介した。

また、海は生物にとってかけがえのない存在であり、生物の進化・地球環境の変遷にも直接的に深い影響をあたえてきたことを紹介した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



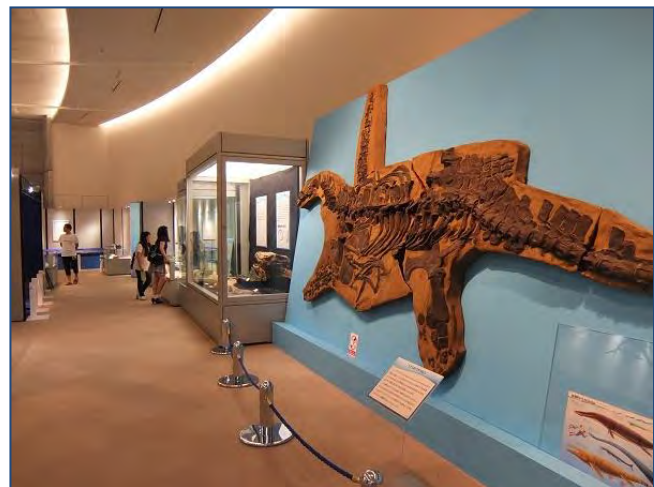
【展示テーマ：恐竜時代の群馬の海】

主な展示資料

- ・ 恐竜時代の群馬の海から見つかった化石により群馬と海の間を繋ぐことができる展示

【海の学び効果】

さまざまな種類の恐竜時代の海に生息していた生きものたちの化石が、群馬県からも見つかったことを紹介することで、海のない群馬県も長い歴史の中では海に関係していたことを再認識し、郷土の自然史について学ぶ機会とした。



【展示テーマ：海の“恐竜”たち】

主な展示資料

- ・ フタバスズキリュウ全身復原骨格の展示
- ・ クビナガリュウ類・ギョリュウ類・モササウルス類の実物を含む標本の展示

【海の学び効果】

恐竜時代の海に生息していた様々な生きものたちの化石標本などを展示、当時の海洋生態系について紹介した。

特に知名度の高い「フタバスズキリュウ」の全身復原骨格を新規製作し、本企画展の主展示資料とすることで、夏休み期間中の子どもたちにも視覚的インパクトを与えながら恐竜時代の海に生息していた絶滅動物について興味関心を喚起した。

これにより太古の昔から現在への脈々とつづく生命の系譜を学ぶとともに、海洋生物の進化や当時の生態系、そして海との共存について学ぶ場とした。



【展示テーマ：恐竜時代の海の生態系】

主な展示資料

- ・アンモナイト類やサメ類、ワニ類など中生代の海洋生物の進化を理解できる展示
- ・中生代の生態系を構成していた様々な生物の化石により当時の生態系について学ぶ展示

【海の学び効果】

中生代という時代の海を構成していた生きものたちの進化を紹介した。

当時の海に生息していた様々な生きものたちの化石を概観することで、当時の海洋における生態系の変遷や海洋環境の変遷が地球全体に及ぼしてきた影響を知ることが出来た。

地球環境の変遷を学ぶことや、海洋をテーマに地球規模での未来の環境を考える機会を提供した。

【来館者の声】

- 大昔から海には生命があったこと、それが今に続いていることが様々な展示から改めて感じ取れました。
- 子どもたちは魚がいる、泳げる海ということでしか知らないもので、昔は海の中に恐竜や今はいないいろいろな生き物がいたと学べた。今の海についても学べたらいいと思った。
- 子ども向けの図鑑で恐竜は多く学べますが、海竜等、海に関する古生物はあまり見かけません。今日、模型・パネル等で学習できて良かったと思います。今後も、日頃子どもが触れることがない学習の場を提供していただければと、大変ありがたいです。

2. 関連事業の内容

■企画展記念講演会

【開催日時】①平成27年7月11日（日）13:30～15:30
②平成27年7月19日（日）13:30～15:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 学習室

【参加者数】①69人 ②52人（合計121人）

【実施内容・目的】

- 専門家による講演会を開催し、企画展のテーマである「恐竜時代の海」をスタートとした地球規模での生命の歴史を学び、ひいては現在の我々が直面する海を含む自然環境との共存について考える機会とした。
- 参加者からの関心の高さを示すように講演会の終了後には、多くの方々から講師への質問がよせられた。



開催場所



講演会の様子



専門家による恐竜時代の海に関する講演会を2回実施した。企画展のテーマである「恐竜時代の海」をスタートとして地球規模での生命の歴史を学び、ひいては現在の我々が直面する海を含む自然環境との共存について考える場をも提供することで、海の重要性や大切な自然を次世代に引き継ぐことの大切さについても再認識していただく場となった。



1回目の講演会では、フタバスズキリュウの発掘段階から研究を行った当館の長谷川善和名誉館長により、研究を行った者だからこそ語ることの出来る話題を織り交ぜながらフタバスズキリュウとその時代について紹介した。

これにより聴衆によってはフタバスズキリュウを化石という“モノ”の認識から、生物として実感することを助けるとともに海についての親しみや興味関心の喚起を効果的に行うことができた。



2回目の講演会では、恐竜時代の海洋に生息した様々な生きものたちの世界について東京学芸大学の佐藤たまき博士に講演をしていただいた。

恐竜時代の海の中で繰り広げられた生物たちの世界を紹介することで、当時の「海洋」について理解を深めて頂き、ひいては恐竜時代から脈々と受け継がれてきた海洋のかけがえのなさを実感し、それを次世代へと引き継ぐ大切さを再認識する場となった。

【来館者の声】

- 今の海ではどのような生き物がいるのか知りたくなった。
- 海に親しみを持った。様々な生き物が出て、進化して今の海があるのだと感じました。
- 今知っている海だけではなく、地球が始まってからの様々な生物のことを知りたくなりました。

■アンモナイト化石のカラーレプリカをつくろう

【開催日時】①平成27年8月1日 ②8日 ③15日 ④22日 ⑤29日
8月の全土曜日 14:00～15:00

【開催場所】群馬県立自然史博物館 実験室

【参加者数】①34人 ②42人 ③57人 ④43人 ⑤104人
(全5回 合計280人)

【実施内容・目的】

- 主に小学生を対象としたワークショップ形式で、恐竜時代の海に生息していた生きものの代表でもある「アンモナイト」のレプリカを製作した。
- 「恐竜時代の海」に生きた「アンモナイト」に関して、生態系やそれを取りまく環境などを学び、実物の「化石」に触れる機会を創出した後に自分のオリジナル「アンモナイト」レプリカを製作することで、記憶に残る学びとした。



開催場所の全景の様子



参加者への説明の様子





主に小学生を対象として、ワークショップ形式で恐竜時代の海に生息していた生き物の代表でもあるアンモナイトのレプリカを製作した。

実際の化石に触れ、さらに自分自身でレプリカを制作することで恐竜時代の豊かな海に生息していた生きものたちについて、より興味・関心を持っていただく機会とした。



このイベントは、博物館に馴染みのない方々にとっても参加しやすく、これによってアンモナイトをはじめとした中生代の海に生息していた生き物たちへの興味関心を喚起することができた。そしてその後に企画展を見ることで効果的な「海の学び」への導入となった。

これをきっかけとして、海についてもっと知りたくなったという声も多く寄せられるなど、「海の学び」への導入として効果的なイベントであった。

【来館者の声】

- 海のことをもっと知りたくなった。海の生きものは大変種類が多く、もっとたくさん
の大型生物をみたい。
- わかりやすい説明で、昔の海についてもっと知りたくなった。
- アンモナイト大きさがすごかった。いかとタコの仲間だとわかった。

■講演会付き映画上映会

【開催日時】平成27年8月2日（日）日 10:00～12:00
13:30～15:30

【開催場所】かぶら文化ホール（群馬県立自然史博物館と隣接）

【参加者数】696人, 517人（2回合計 1,213人）

【実施内容・目的】

- 企画展の主要展示資料であるフタバズキリュウが登場する映画「ドラエもん のび太の恐竜2006」を上映会を実施した。
- 同時開催として、フタバズキリュウの名付け親で発掘から研究まで行った長谷川喜和氏（群馬県立自然史博物館名誉館長）特別講演会を実施した。
- 博物館が実施する既存のイベントとは趣向を変えることで、いままでは博物館のイベントに参加したことが無かった方々にも楽しみながら学べる機会を創出した。
- 専門家による講演会を同時に開催することで“参加すること”が目的ではなく、専門的な知識を得ながら“参加することで学ぶ”ことを目的とし、企画展の持つテーマに対してより一層の興味・関心を持つ機会とした。



開催場所の全景の様子



受付の様子





これまで博物館のイベントに参加したことが無かった方々にも参加しやすい映画上映会を行うことで、より多くの来館者層の開拓をねらいとした。

さらに専門家による講演会をあわせて実施する事で、気軽に企画展に参加してもらい、企画展のテーマである「海についての親しみ、興味関心の喚起」を効果的に行う事を意図した。



映画イベントをきっかけとして、企画展自体についても興味関心を喚起することができ、効果的な海の学びの実践の一助となった。

【来館者の声】

- 海に親しみを持った。ドラエモンのピー助が大好きなので、詳しいことしれて楽しかった。
- 昔の海の生きものが現在の生き物にどのようにつながっていったのか、少しわかりました。
- クビナガリュウの全身をみれたのは良かった。海のことをもっと知りたくなった。

【事業全体のまとめ】

- 海のない地域における自然史系博物館が実施する海洋学習のモデルケースとなるべく、あえて「陸地」から多くが発見される化石を中心とした「海無し県だからこそ」の企画展を実施した。
- 地域を代表する自然史系博物館として、群馬県も恐竜時代には海であったこと知ってもらうとともに、地域の自然史について興味・関心を持ってもらうことに寄与した。
- 本企画展の開催を機に知名度が高く視覚的インパクトの強いフタバズキリュウの全身復原組立骨格を新規製作し、企画展示資料の根幹と位置付けることで企画展のテーマである「恐竜時代の海」を改めて強調できた。
- 「海洋教育」を実践することは常設展示との相乗効果により「海」だけに留まらず、私たち人類をはじめとした生物と「海」や「川」、「山」などの地球規模での自然環境について学ぶ場を創出することができ、効果的な学びの手段をとることが再認識できたことは社会教育施設としても大きな収穫であった。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 安中市立秋間小学校	• 企画展オープニングセレモニーへの参加 • セレモニー後の小学生向け解説ツアーを実施 (児童 36 名・保護者 37 名)
2. 国立科学博物館	• フタバズキリュウ全身復原組立骨格の新規製作、 展示への協力
3. 東京大学総合研究博物館	• 恐竜時代の海の生態系を伝えるコプロライト（糞化石）についての研究紹介と実物化石標本の展示協力
4. 成安造形大学	• 絶滅した海棲ワニ化石「ゴニオフォルス」の世界初となる全身骨格組立復原と生態画の製作プロジェクトを協力実施

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. ニューライフ富岡	おでかけ SPOT 県立自然史博物館・・・6/1
2. ニューライフ富岡	展示) 恐竜時代の海の支配者・・・7/1
3. 毎日小学生新聞	恐竜さんぽ13 夏休みに会いに行こう!・・・7/6
4. タウンぐんま	第 49 回企画展恐竜時代の海の支配者・・・7/10
5. 朝日ぐんま	企画展「恐竜時代の海の支配者」・・・7/10
6. 上毛新聞	恐竜時代の海の支配者・・・7/10
7. 朝日ぐんま	恐竜たちに会いに行こう! 県立自然史博物館 ・7/24
8. はしもとランド	群馬県立自然史博物館・・・7/25
9. 上毛新聞	時の話題・・・8/5
10. 産経新聞	全身復元骨格など 250 点展示・・・8/23

以上